

令和元年度事業報告書

令和元年度は、令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症が国内外で広がりを見せ始めたことにより、国や東京都による感染拡大防止対策に協力するため東京クルーズセミナーの中止や視察船による港内案内の3月の休止、東京臨海部広報展示室の臨時休室などの対策を講じるなど、協会事業の実施にも大きな影響が生じた。

年度当初から新型コロナウイルス感染症の感染拡大が生ずるまでは、次のとおり各種事業を実施した。

振興事業としては、東京港振興使節団の海外派遣や「東京港のつどい」などの貨物集荷活動や、国内外のクルーズ客船に対する入出港歓送迎行事や外国客船誘致のための営業活動受託業務などの客船誘致活動などを着実に展開した。

都民を対象とした見学会についても、社会科見学船事業や土曜見学会の開催など活発に展開した。

会員向け事業については、新規採用者研修として活用いただいている東京港研修・見学会や大型物流施設「羽田クロノゲート」の見学会、東京港の魅力の一つである夜景を鑑賞する夜景見学会など、一層の充実に努めた。

東京港及び臨海副都心のPR施設「東京臨海部広報展示室」の管理運營業務については、東京みなと館の運営で培ったノウハウを活かして国内外に向けた東京港及び臨海部のPRに取り組むとともに、多数の企画展示を実施し来室者の増に努めた。

また、収支の改善を図るため引き続き経費の削減に努めるとともに、協会の財政基盤の確立のための収益事業を実施した。

1. 港湾振興事業

(1) 東京港振興促進協議会

平成26年1月に策定された「第4次アクションプラン」の課題実現に向け、東京港の物流機能の強化や安全の確保・危機管理、環境に配慮したみなとづくり、みなとの賑わいの創出などへの取り組みを進めた。

(2) 船舶貨物誘致活動の推進

東京港振興使節団として次のとおり使節団を派遣し、ポートセールス活動を展開した。

派遣期間 1月12日から1月18日までの7日間

派遣先 シンガポール、台湾

活動内容 現地の港湾管理者等を訪問し、意見交換や港湾施設の視察など港湾情報の収集を行ったほか、シンガポールではクルーズターミナル運営者との意見交換やターミナルの視察を行った。

(3) 客船誘致活動の推進

① 入出港歓送迎行事等の実施

東京港初入港となる「シルバー・ミュージズ」、「コスタ・ベネチア」、「バイキング・オライオン」、「オイローパ2」、「アザマラ・クエスト」をはじめ、「セブンシーズ・マリナー」、「セレブリティ・ミレニアム」、「コスタ・ネオロマンチカ」、「クリスタル・シンフォニー」、「飛鳥Ⅱ」、「にっぽん丸」など国内外のクルーズ客船に対して延べ30回の入出港歓送迎行事を行い、記念品を贈呈するなどの誘致活動を行った。

また、都民を対象とした低廉な価格設定による「都民クルーズ」に協力し、太平洋周遊1Weekクルーズを支援したほか、「全国クルーズ客船誘致連絡会」に参加し、今後の客船の動向など効果的な受け入れのための情報を収集した。

② 客船誘致営業活動受託業務の実施

東京都からの受託業務として、海外船社の東京港視察対応など東京港寄港に向けた営業活動を行った。

③ 東京クルーズセミナー

令和元年度の東京クルーズセミナーについては、2月10日に東京都港湾局、東京港埠頭株式会社との共催により開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。

④ 東京クルーズ客船プロジェクトチームへの参加

東京都港湾局、東京港埠頭株式会社及び当協会によるプロジェクトチームに参加し、クルーズ客船の東京港誘致に向けた取り組みについて検討を行った。

(4) 荷主などとの懇談会の開催

東京港の利用促進に向けた取組みとして、荷主などの意見・要望を把握し、新たな施策展開に向けた検討に資するため、「東京港のつどい」を開催した。

なお、今年度は2020年東京大会の開催を踏まえ、円滑な港湾物流の確保に向けて、幅広く協力を呼び掛ける必要があることから、参加者の規模を拡大した。

オリンピック・パラリンピック準備局からは2020年東京大会に向けた大会輸送と企業活動の両立に向けた交通対策が、港湾局からは東京港における2020年東京大会への取組みについての説明がなされた。

開催日 1月30日

開催場所 TKPガーデンシティ品川

主催者 東京都、東京港埠頭株式会社、東京都港湾振興協会

参加者 約300名

(5) 都民を対象とした東京港などの見学会の実施

① 社会科見学船による東京港案内

東京都との共同事業として、船の提供は都が、募集・案内業務は当協会が担当し、都内の小学4年生から6年生及び中学生を対象に、海上バスによる東京港案内を実施し、東京港の役割や都民生活とのかかわりなどを説明した。

106航海、130団体、9,098名の乗船者に対して案内を実施した。

② 新東京丸による東京港土曜見学会

広く都民に東京港をPRするため、新東京丸による東京港案内を行う東京港見学会を実施した。より多くの方に参加していただけるように実施回数を増やすとともに実施日を土曜日とした。

34回実施し合計1,183名の参加を得た。

③ 親子で行く！東京港高潮対策センター見学&運河クルーズ

東京都からの受託事業として、高潮や津波による水害から都民の生命・財産を守る高潮対策センターの見学と東京の魅力あふれる運河を水上タクシーなどで巡るクルーズを実施した。

実施日 8月14日、15日、16日（各日2回実施）

参加者総数 88名

④ 東京港夜景観賞ツアー

広く都民に東京港の魅力をPRするため、公募により参加者を募集し、普段は見る機会の少ない東京港の夜景をTOKYOミナトリエ及び海上バスから観賞するツアーを実施した。

実施日 11月27日

参加者 214名（応募倍率27.6倍）

(6) 東京港及び臨海副都心の観光案内事業の実施

東京港及び臨海副都心を、都民はもとより国内外の多くの人々に親しまれる東京の観光スポットとしてさらに発展させるため、日の出ふ頭海上バス発着所に観光案内掲示板及びパンフレットスタンドなどを設置し、各種博物館などの施設案内や港湾局事業をはじめとする東京都のお知らせやイベントなどの情報提供に努めた。

なお、英語や中国語、韓国語などの外国語のパンフレットを配備するなど外国人に対するPR活動の充実を図った。

2. 情報提供等事業

(1) 会誌「東京港」及び東京港関係資料などの発行・配布・販売

① 会誌「東京港」（年4回発行）

② 「東京港ハンドブック」（和文・英文）

③ 「東京港便覧」

④ 「東京港港内航空写真集成図」

(2) 会員を対象とした東京港などの見学会の開催

① 会員向け東京港見学会・研修会

船やバスなどを利用し、東京港の現状を直接見ていただくとともに、会員企業・団体の新規採用者研修などの業務研修として活用していただくための東京港の見学会・研修会を実施した。

(ア) バスによる東京港研修・見学会（４月９日、１２日） 合計７８名参加

(イ) 船による東京港見学会（１２月４日、１０日、１９日） 合計６９名参加

② 東京港夜景見学会

東京港の夜景をＴＯＫＹＯミナトリエ及び海上バスから観賞する夜景見学会を実施した。

なお、臨海副都心の夜景についてもＰＲできることから、昨年度に引き続き一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会と合同で実施し、参加者の拡充を図った。

実施日 １１月２１日

参加者 １６２名

③ 東京港港湾施設等見学会

大型物流施設「羽田クロノゲート」の見学会を実施した。

実施日 ２月５日、１２日

参加者 ６９名

(3) 東京都港湾局等事業説明会及び講演会

東京都港湾局及び東京港埠頭株式会社の平成３１年度事業についての説明会と東京都港湾局技監による東京港の最新のトピックスをテーマとした講演会を開催した。

開催日 ４月８日

開催場所 海運クラブ

参加者 港湾関係者を中心に２３１名

<事業説明会>

① 「平成３１年度 東京都港湾局事業について」

東京都港湾局総務部企画計理課長 渡邊 正也 氏

② 「平成３１年度 東京港埠頭株式会社事業について」

東京港埠頭株式会社総務部経理課長 卯月 秀実 氏

<講演会>

「東京港の最近の話題」

東京都港湾局技監 原 浩 氏

(4) 港湾事業講習会及び東京都港湾整備振興大会の開催

港湾に関する講習会及び港湾整備事業の拡大強化を図るための集会を次のとおり実施した。

開催日 7月29日

開催場所 海運クラブ

参加者 港湾関係者を中心に251名

① 港湾事業講習会

東京港を巡るコンテナ物流の現状や今後の見通しなどについての講演会を開催
「大型化するコンテナ船と定期船サービスの変化」

オーシャンネットワークエクスプレスジャパン株式会社代表取締役社長 木戸 貴文氏

② 東京都港湾整備振興大会

港湾整備事業の拡大強化を図るため、都議会議員をはじめ、島しょの各町村長、東京都港湾局長ほか関係者の臨席のもと、東京都の港湾・海岸整備の振興に対する要望に関する決議文を採択し、関係機関への要望活動を実施

3. 東京みなと祭事業

東京みなと祭協議会事務局として、5月18日・19日の両日に、晴海客船ターミナルを中心に第71回東京みなと祭を開催した。

恒例行事のポートバザールや東京港クルーズ、珍しい船の一般公開などのほか、本年は晴海ふ頭に加え豊洲ふ頭も会場としてイベントを展開し、移動水族館やヘブンアーティストの公演など、東京港のPRを一層図る多彩な行事を実施した。

また、共催行事として5月19日にドラゴンボート大会を実施したほか、協賛行事として水の消防ページェントなどが実施された。

晴海会場と豊洲会場をあわせた来場者数は70,000人にのぼった。

5月20日には東京港開港記念行事として、東京港港湾功労者表彰式を芝浦サービスセンターにおいて開催し、港湾功労者11名に対し都知事感謝状と記念品を贈呈した。

表彰式に引き続き、東京港開港記念祝賀会実行委員会事務局として東京港開港記念祝賀会を開催し、254名の出席者があった。

4. 広報関連受託事業

東京都から委託を受けて、次の事業を東京港PR活動として実施した。

(1) 初入港船等の歓送迎

初入港船、外国客船、国内クルーズ客船、コンテナ船などに、45回の歓送迎行事を実

施した。

また、外国客船については、英文等のガイドマップを乗客、乗員に配布し、船内または客船ターミナル内にて観光ボランティアを活用したインフォメーションカウンターを開設するなど乗客、乗員に対するサービスの向上に努めた。

(2) 視察船による東京港案内

国内の港湾関係者のほか、広く都民を対象に、視察船による東京港案内を実施し、東京港の将来計画や各種港湾施設の説明を通じ、東京港の機能や都民生活とのかかわりなどの理解を図った。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、3月の運航が休止となったため、港内案内業務も休止となった。

246航海、970団体、11,006名に対して案内を実施した。

5. 東京臨海部広報展示室事業

来室者への展示案内に積極的に取組むとともに、集客を図るため、次のとおり特別企画展を実施した。

○ 葛西海浜公園ラムサール条約湿地登録記念展

葛西海浜公園がラムサール条約湿地に登録されたことを記念した特別展示。

葛西沖の歩みから公園がラムサール条約湿地に登録されるまでの変遷などをパネルで紹介

開催期間 平成31年1月8日～4月14日

○ ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞入賞作品展

「ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞」（主催 公益財団法人日本海事広報協会）の2018年度の入賞作品展

開催期間 平成31年3月19日～4月14日

○ 東京都港湾局 工事の見える化展

普段は「見えない」東京港の整備工事の様子を、パネルや模型を使って「見える化」して紹介

開催期間 平成31年4月16日～令和元年5月16日

○ 東京港に入港した客船

これまで東京港に入港した客船から寄贈された記念楯やミニチュアモデルを展示

開催期間 令和元年5月17日～令和元年7月21日

○ ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞入賞作品展

全国の小学生・中学生・高校生を対象に、海事産業の重要性を理解してもらうことを目的として開催されている「ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞」（主

催 公益財団法人日本海事広報協会)の2018年度の入賞作品展

開催期間 令和元年7月23日～9月29日

○ 海上公園フォトコンテスト受賞作品展

東京港埠頭株式会社様のご協力をいただき、同社が主催のお台場エリア周辺の海上公園を対象公園としたフォトコンテストの最優秀賞などの受賞作品展と海上公園の魅力を紹介するパネル展

開催期間 令和元年7月23日～9月29日

○ 東京都港湾局 工事の見える化展

普段は「見えない」東京港の整備工事の様子を、パネルや模型を使って「見える化」して紹介

開催期間 令和元年10月1日～11月10日

○ お台場レインボー花火写真展

花火写真家 金武 武氏が撮影したお台場レインボー花火の写真展

開催期間 令和元年11月12日～令和2年1月12日

○ 東京港に入港した客船

これまで東京港に入港した客船から寄贈された記念楯やミニチュアモデルを展示

開催期間 令和2年1月14日～令和2年2月28日

入室者は、都民をはじめ国内外からの行政視察、港湾関連企業グループ、小中学生の社会科見学など多岐にわたり、年間入室者数は、27,875名であった。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2月29日から3月31日まで休室となった。

6. 収益事業

当協会が設置した駐車場、自動販売機などの営業活動を実施するとともに、「東京港ハンドブック」「東京港便覧」のほか、会員から要望の強い「東京港港内航空写真集成図」などの東京港関係資料の販売を行った。

7. 会員の異動状況

(1) 新規入会申し込み会員

法人 1社

(2) 退会会員

法人 1社

(3) 会員数

306社（令和2年6月1日現在）